

第 1 回	イントロダクション、文化人類学とその周辺学問、文化人類学の歴史
第 2 回	文化人類学の目的・視点・方法とフィールドワーク・エスノグラフィ
第 3 回	「社会」の概念・「文化」の概念
第 4 回	文化相対主義と自民族中心主義
第 5 回	ことば・衣食住・生業と文化
第 6 回	「社会」や「文化」の単位(民族集団・エスニシティ・地域・国家)
第 7 回	家族・親族組織、出自集団、婚姻
第 8 回	ジェンダー・SOGI の諸相と文化人類学 その 1
第 9 回	ジェンダー・SOGI の諸相と文化人類学 その 2
第 10 回	信仰、宗教、儀礼－死者儀礼と成人儀礼の事例から－
第 11 回	グローバリゼーションと異文化理解－海外旅行の事例から－
第 12 回	炭鉱社会の文化人類学(1)－筑豊の女性労働－
第 13 回	炭鉱社会の文化人類学(2)－三池炭鉱のフィールドワークと社会調査実習－
第 14 回	多文化共生への道(1)－在日コリアン・ユンヌンチュー
第 15 回	多文化共生への道(2)－定住外国人－、まとめ
テキスト	なし。必要に応じて資料を配布する。
参考図書・ 教材／データ ベース・ 雑誌等の紹介	綾部恒雄・桑山敬己(編)『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房(2025 年(第 3 版)、2010 年(第 2 版)、2006 年(初版)) 波平恵美子(編)『文化人類学』(カレッジ版)(2021 年(第 4 版)) そのほか講義中に紹介。
課題に対する フィード バックの方法	質問欄に対する回答を次回の講義資料に添付してフィードバックする。期末レポートについては、個別にフィードバックはせず、15 回目に全体的な講評を行う。
学生へのメ ッセージ・ コメント	授業の内容を踏まえて、発表を行い、授業内容を理解し、自らの意見を簡潔に伝達する能力を望む。 積極的に映像視聴、ちょっとしたワークをする予定。 これまで、身近で体験した異文化理解の場면을整理するのが望ましい。また、発表に向けて、授業時間以外に準備する必要がある。 日本や外国で起こる社会的な事件や現象について興味を持って取り組むこと。わからないことがあったら、積極的に直接または WEB フォーム等で質問すると理解が深まると思う。 なお、シラバス上で見る限り「異文化間コミュニケーション」や「比較文化と国際理解」といった授業は本授業の理解に役立つと思われるが、視点や考え方などが異なる部分もあり同一の主旨ではないので受講およびレポート作成の際には注意が必要。